

自然教室だより

10月・秋のならやま自然観察会報告

辻本 信一

平成28年10月22日(土)、午前中の会員向け芋掘りイベントに協賛、午後より自然教室チーム主催「秋のならやま自然観察会」を実施しました。



【会員向け芋掘り大会】

【参加者集合写真】

午前中の参加者は会員のご家族(お孫さん)1名を含め20名。そのうち13名の方が昼からの自然観察会にもご参加いただきました。正確にはタイミング良くそばを通りかかったオランダ人女性1名とメキシコ人男性1名を加え15名。思わぬ形で国際交流つきの楽しい山行きとなりました。

コースは1週間前、佐保台小学校の児童達を招き森林学習で利用したコースと同じ、東池の脇を通り部分皆伐・クヌギ植樹地帯を抜け、鳥観の丘に出て、その後竹の子平の横を通過し、つつじの道を下るコース。

コース入口では5枚の小葉からなるコシアブラの葉が私達を迎えてくれ、足元の落ち葉からは独特の甘い香り。近くにはよく似た三出葉のタカノツメ、どちらも若葉は美味しく頂けます。

その隣では山菜の代表選手、タラノキの幼木がトゲいっぱい幹をさらしています。

最初の到達地点、萌芽試験実施中の部分皆伐地

では、アカメガシワやカラスザンショウの実生が目立ちます。カラスザンショウの葉を揉むと、独特のレモンの様な柑橘系の香りがします。その匂



【部分皆伐地にて】

いにみんなウツトリ。

そこを過ぎ、登り道をしばらく行くと、行程の折り返し点「鳥観の丘」に到達。普段ならここからは平城京の大極殿が遠望できるのですが、今は竹やコナラの葉が視界を遮ります。

ここで目にしたのは黒い実がおいしいシャシャンボの木。葉の裏を触ると主脈に2~3の突起があり、それと判別できます。一旦戻り西側に進むと竹の子平。そこでは名札のかかったクロバイの木に出会います。普段意外と目につかない木ですが、初夏には足元に落ちた可憐な白い花で絨毯を敷き詰めたようになり、その存在に気付きます。



【説明を聞く参加者】

【散策路を整然と、】

途中には足元にいくつものマンリョウの葉。ならやまでは、センリョウ、イチリョウ(ツルアリドオシ)も目立ちます。「千両」、「万両」、「有り通し」と縁起の良い名前が揃い、改めてその植生の豊かさに驚かされます。他にも、エネルギー革命以前の薪炭の時代、資源として欠かせなかったコナラ、クヌギは勿論のこと、ならやまで特に目立つのはサカキ、ヒサカキです。両方とも競う様に生えています。似た者同士としてはアセビとネジキ。どちらもツツジ科でよく似ていますが、アセビは常緑樹、ネジキは落葉樹です。

こういう話をご紹介しながら30分くらいで走破できるコースを1時間以上かけて散策いたしました。希少種は別にして、この日出会った植物は、イヌツゲ、アオキ、カクレミノ、リョウブ、ソゴ、サルトリイバラ、モチツツジ、コバノミツバツツジ、チヂミザサ、ヒヨドリバナ等々。コース終わり近くでは「親孝行の木」で知られるヤマコウバンもございました。冬の落葉の時期に葉が落ちず借金の期限を延ばせたとか。葉が落ちないので、受験生のお守りとしても人気があるともいわれています。素晴らしいならやまの散策に次回は皆さんも是非ご参加ください。